

# 2024 環境経営レポート

Environmental Management Report



株式会社グリーンアローズ九州

# Top Message

**知恵と挑戦で、“不要になったもの”を“価値あるもの”へ。**

グリーンアローズ九州は、廃石膏ボードのリサイクルに特化した企業として、排出から中間処理、そして再資源化製品の供給に至るまで、一貫した循環の仕組みを構築しています。急増する解体工事に伴い、廃石膏ボードの排出量は今後ますます増えていくと予測されていますが、リサイクルルートの整備は依然として追いついておらず、不適正処理や不法投棄といった深刻な環境課題が現実として存在しています。

私たちは、この問題に対し「リサイクルの力」で真正面から取り組み、社会的なソリューションを提供することを使命としています。社名に込めた「グリーン」は環境、「アローズ」は毛利元就の“三本の矢”の故事にちなんでおり、私たち単独ではなく、お客様・ユーザー様・出資者様など、多くの方々と力を重ねてこそ実現できるリサイクルの輪があると信じています。

このたびのエコアクション21の取り組みも、そうした輪を広げるための一歩です。持続可能な社会に貢献する企業であり続けること。それが私たちグリーンアローズ九州の変わらぬ意志であり、これからも環境への責任を果たすため、挑戦を続けてまいります。

代表取締役社長 瀬瀬 信吾





# Purpose

廃棄物に、もう一度“価値”を。

**WASTE × WISDOM = WORTH**

廃棄物

知恵

価値

私たちは、「廃棄物」として終わらせるのではなく、資源として“Re-Value”する視点を大切にしています。  
廃石膏ボードというニッチでありながら重要な課題に向き合い、技術と想いを重ねて、未来に残せる循環型社会を実現していきます。

## 【基本理念】

私たちは、石膏ボードを通じて『社会的に不要になったり、負の環境影響を与えるものに対し、工夫を凝らし、再び価値を付ける新しい仕組み(環境リバリューストラクチャー)』を創造して、環境課題を解決します。

## 【行動指針】

1. 地球温暖化防止に資するため、当社の事業活動で消費するエネルギーで、特に電気および燃料の使用量の削減に努めます。
2. 産業廃棄物の収集運搬・中間処理の作業を適正かつ安全に行うと共に、必要な無駄を改善して、作業の効率化を図ります。
3. 当社で発生する廃棄物の抑制を図ると共に、受け入れた廃棄物のリサイクル率を高めるための処理技術の向上に努めます。
4. 産業廃棄物の収集運搬・中間処理で、粉塵などの環境負荷の低減及び、環境汚染の予防に努め、これらの継続的改善に努めます。
5. 環境側面に関する法規制の他、お客様とのお約束事項、および当社が定める自主管理基準値を遵守します。
6. 当社および当社に関連する組織の環境目的・環境目標を設定し、見直しを行います。

制定 2016年9月1日

改訂 2024年3月1日

株式会社グリーンアローズ九州

代表取締役社長 瀬瀬 信吾



# Company Profile

(2025年5月現在)

会社名	株式会社グリーンアローズ九州
本社所在地	福岡県糟屋郡宇美町ゆりが丘2丁目7番15号
工場所在地	福岡県糟屋郡宇美町ゆりが丘2丁目1番3
代表者	代表取締役社長 瀬瀬 信吾
設立日	2012年3月2日
資本金	9,000万円
環境管理責任者	木下 直哉
環境管理担当者	松田 緑・金蔵 翔
事業内容	産業廃棄物処分業（破碎・圧縮梱包）、産業廃棄物収集運搬業 一般廃棄物処理施設（破碎・圧縮梱包）（災害廃棄物）
事業年度	3月～翌年2月
認証登録範囲	全組織・全活動
グループ会社	株式会社ダイセキ環境ソリューション 株式会社グリーンアローズ中部 株式会社杉本商事 有限会社杉本紙業



	単位	2022	2023	2024
売上高	百万円	792	768	740
総入荷量	t	44,401	41,281	43,736
総処理量	t	44,354	42,396	42,531
延床面積 本社	m <sup>3</sup>	157	157	157
延床面積 工場	m <sup>3</sup>	2,159	2,159	2,159
従業員数	人	23	28	25

# 事業許可一覧＋認定・登録 紹介

産業廃棄物処分業



許可番号：0420170015

産業廃棄物収集運搬業



許可番号：4000170015

一般廃棄物処理施設



許可番号：第99号

エコアクション21



認証番号：0011868

福岡県SDGs登録制度



登録番号：第849号

当社は産業廃棄物処理業許可をはじめ、各種環境認証を取得しています。  
エコアクション21認証・登録、福岡県SDGs登録企業として、環境と社会に配慮した事業運営を行っています。



# つくる責任、つかう責任。 —その先にある、リサイクルの本質。

SDGs目標12「つくる責任・つかう責任」。  
廃棄物のその先にまで責任を持つことが、いま企業に求められています。  
私たちは、エコアクション21の理念にもとづき、「捨てずに活かす」選択肢を  
社会に広げていきます。  
石膏ボードリサイクルは、持続可能な未来を築く一歩です。

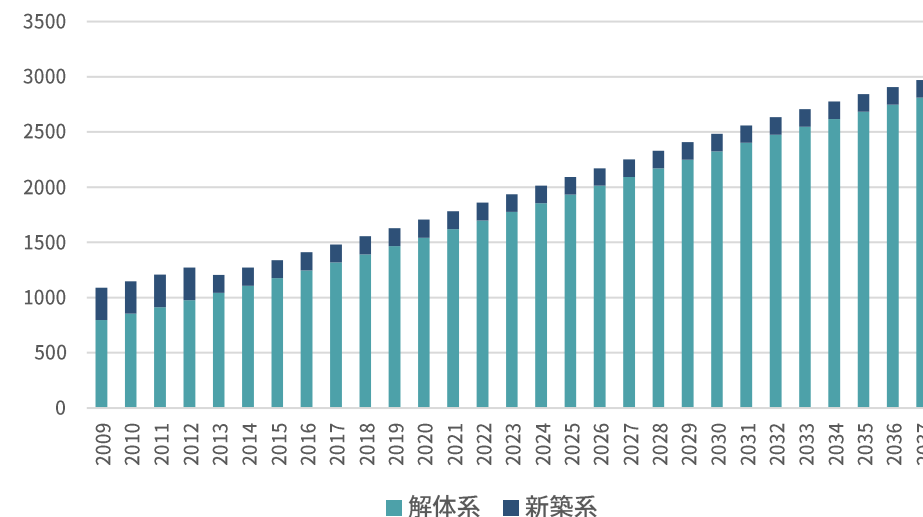
## 廃石膏ボードのゆくえ — 循環か、埋立か。

石膏ボードは、施工性や耐火性・遮音性に優れた建材として広く使われています。  
しかし、適切に処分しなければ硫化水素の発生や環境汚染のリスクがあるため、リサイクル以外では管理型最終処分場での処理が義務付けられています。

新築工事などで発生する比較的きれいな廃材であっても、リサイクル率は60～70%程度にとどまり、実際には多くが埋立処分されているのが現状です。

排出量は年々増加しており、2039年には全国で300万トンを超える見込みです。  
一方で、最終処分場の残余容量には限りがあり、今後ますます廃石膏ボードの処理は深刻な社会課題となることが予想されます。

石膏ボード排出量推計



出典：（一社）石膏ボード工業会「石膏ボードハンドブック 環境編」より当社作成

分ける、砕く、再び活かす。

廃棄物に、確かな再生の道筋を。一。

最新鋭のリサイクル設備と高度な分別技術により、廃石膏ボードを確実に処理し、適正かつ信頼できるリサイクルルートへとつなげています。

廃棄された素材は、ここで再び“価値ある資源”へと生まれ変わり、持続可能な社会を支える循環の一部として、次の現場へと届けられます。

## 石膏ボードの処理フロー



### 回収・受入

建設現場や解体現場などから排出されたボードを、回収し受け入れます。



### 異物除去

分別ラインにて金属くずや木くずなどを取り除きます。



### 破碎・ふるい分け

自動的に石膏粉と剥離紙に分離し高品質なリサイクル原料を製造します。



### 石膏粉



石膏ボードメーカーへ  
再生石膏ボード



### 剥離紙

製紙メーカーへ  
段ボール原料  
紙クッション材等



# リサイクル × 専門性

当社は、廃石膏ボード処理の専門工場としては国内最大級の規模を誇ります。建設・解体現場の行程に応じて、フレコン1袋の小口対応から大量処理まで、多様な排出ニーズに柔軟に対応しています。

また、一般廃棄物処理施設の設置許可を取得しており、災害時に発生する石膏ボード廃棄物の受け入れ・処理が可能な、全国的にも珍しい処理施設です。平時も有事も、環境を守るインフラとしての機能を果たします。

## 業界トップクラスの処理能力



国内最大級の処理規模を持つ専門工場で、解体現場の大量処理から小口対応まで、あらゆるニーズに柔軟に対応します。

破 砕 : 210 t / 日 (16時間)  
圧縮梱包 : 81.6 t / 日 (16時間)

## 災害廃棄物にも対応できる許可



災害廃棄物は「一般廃棄物」として扱われるため、通常の産業廃棄物処理業の許可では対応できません。当社は一般廃棄物処理施設の設置許可を保有しており、災害時に発生する石膏ボード廃棄物にも対応可能な、全国的にも稀少な処理施設です。

## 確実なリサイクルルート



排出元、中間処理業者、受入先（メーカー）での共同事業体として高い結束力を有し、排出から受入まで一貫した体制が整っております。

再資源化された石膏ボードは、新たな製品の原料として活用され、「価値ある資源」として社会に貢献しています。

# 保有車両・設備一覧

## 乗用車

種類	台数	用途
ハイブリッド車	4台	営業車・産業廃棄物収集運搬車

## 重機類

種類	台数	用途
ホイールローダー	1台	投入・押上げ・積込
バックホウ	2台	小割・クレーン
フォークリフト	2台	移動・積込

## 設備

種類	台数	処理能力
破碎機	3基	210 t/日（16時間）
圧縮梱包機	1基	81.6 t/日（16時間）

## 環境に配慮した車両・重機の運用体制

当社では、事業活動に必要な車両・重機・設備を適切に整備・管理し、業務の効率化と安全性の向上に取り組んでいます。乗用車はすべてハイブリッド車を導入しており、業務用車両からのCO<sub>2</sub>排出量削減や燃料使用量の抑制といった、環境負荷低減にも配慮した運用を行っています。また、重機類においても、低燃費性能や排出ガス基準を考慮した環境配慮型の機種を導入。

日々の点検・清掃やエコドライブの推進とあわせて、現場における燃費効率の向上と環境負荷の最小化を図っています。

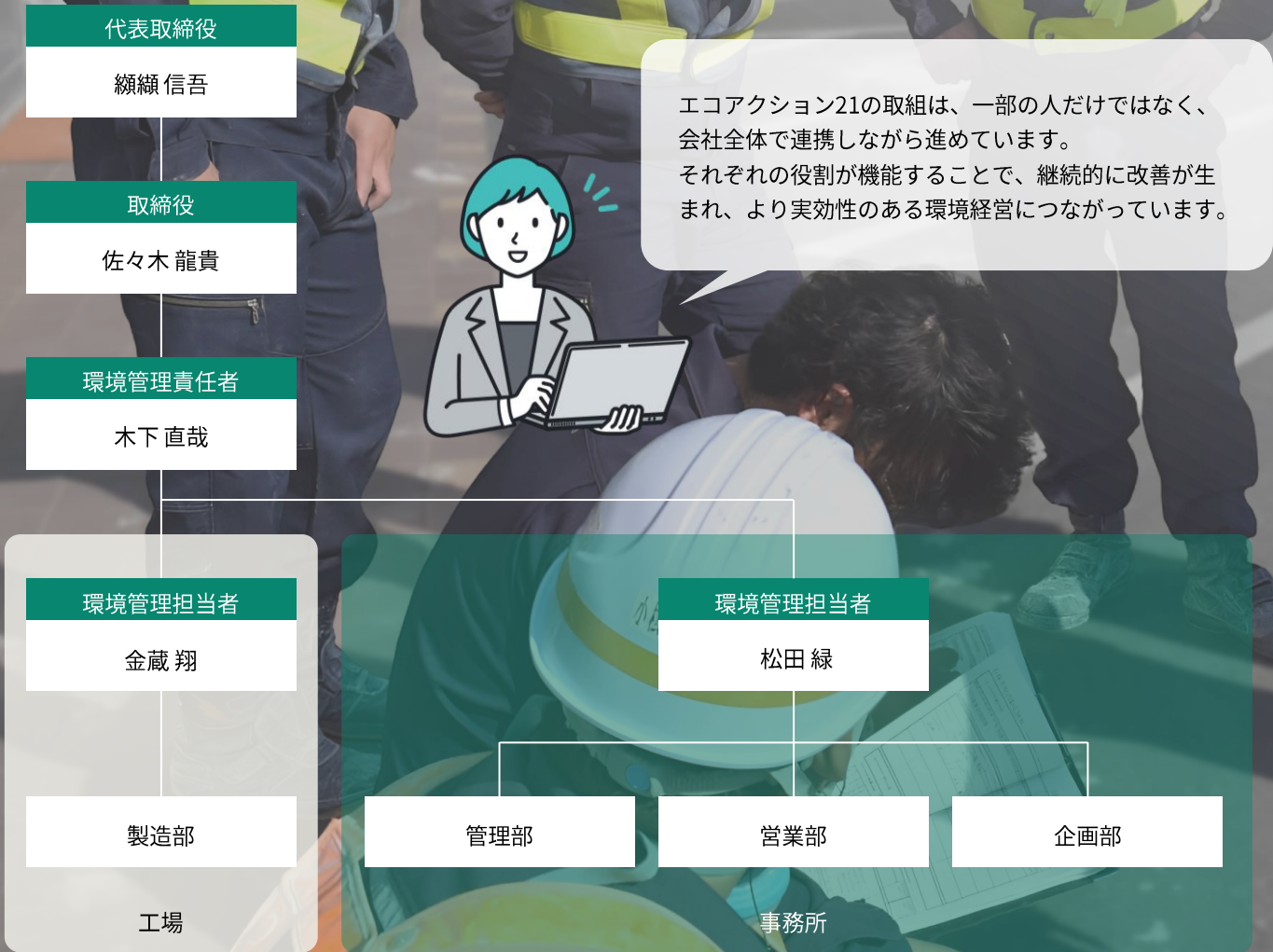
## SDGsへの貢献

これらの一連の取り組みは、「エネルギーをみんなにそしてクリーンに（SDGs目標7）」「産業と技術革新の基盤をつくろう（目標9）」「気候変動に具体的な対策を（目標13）」など、国際的な持続可能性目標にも沿うものです。

今後も、省エネルギーと高効率なオペレーションを追求しながら、環境価値を高める現場づくりを目指してまいります。



# エコアクション21 実施体制

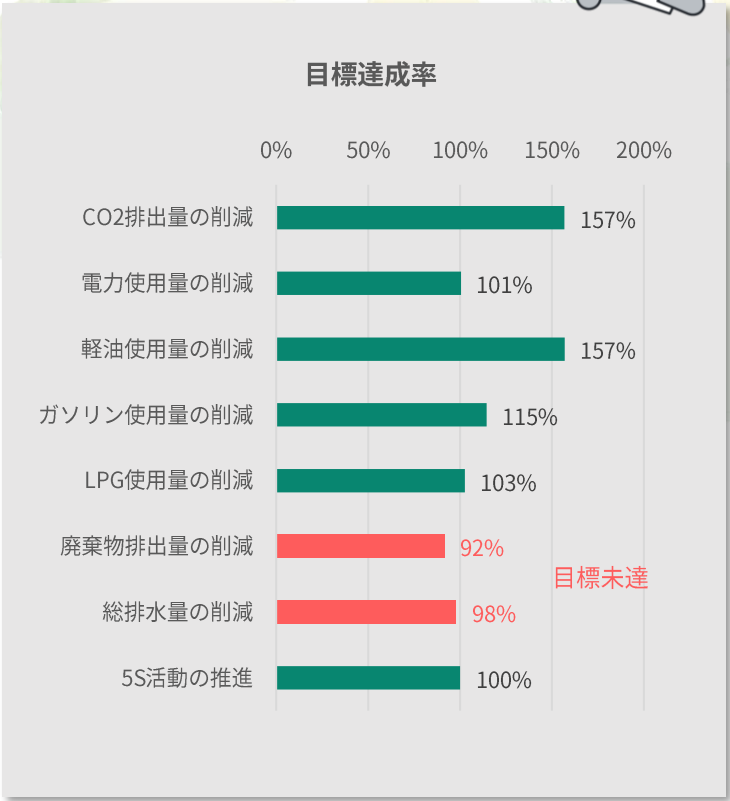


所属（役職）	役割・責任・権限・使命
代表取締役社長	環境経営に関する統括責任 代表者による全体の評価と見直し、指示
取締役	環境経営方針の設定・見直し・評価及び従業員への伝達、環境経営目標、環境経営計画の承認
企画部部长	EA21文書及び記録類の作成・維持・管理 総合的なマネジメント、評価
環境管理責任者	環境経営システムの運用、活動状況を代表者へ報告 環境経営の取り組み状況の確認、環境経営目標の達成状況の評価
環境管理担当者	EA21環境経営システムを構築し、文書化し、実行を推進 環境目標、活動計画の達成と実績の把握 法規制を遵守し、教育訓練の実施、緊急事態への準備、対応訓練の実施
環境管理担当者	環境経営の推進 環境経営方針の周知 環境経営目標及び環境経営計画の実施及び達成状況の報告
製造部	自社廃棄物の保管量、廃棄量の管理 使用燃料の管理、走行距離の管理 各重機別の使用燃料管理、重機稼働時間の管理
企画部	EA21文書及び記録類の作成・維持・管理 環境経営レポートの構成・デザイン
管理部	電力、水消費量、ガス消費量の管理、営業車のガソリン使用量の管理、事業系一般廃棄物の管理
管理部	総処理量、月別データ統括管理

# 環境経営目標及び実績値一覧

項目	単位	基準年度	2024年度				
		2023年実績	目標値	削減率	実績値	目標比	評価
CO2排出量の削減	Kg-CO2	683,221	—	—	435,070	—	◎
	Kg-CO2 / t	16.12	16.04	0.5%減	10.23	−36.2%	◎
電力使用量の削減	kWh / t	32.34	32.18	0.5%減	32.01	−0.5%	○
軽油使用量の削減	L / t	1.219	1.213	0.5%減	0.773	−36.3%	◎
ガソリン使用量の削減	L / t	0.095	0.095	0.5%減	0.083	−12.6%	◎
LPG使用量の削減	kg	20.29	20.19	0.5%減	19.67	−2.6%	○
廃棄物排出量の削減	Kg / 人	7.3	7.26	0.5%減	7.92	+9.1%	×
総排水量の削減	m³	538	535	0.5%減	547	+2.2%	×
5S活動の推進	回 / 年	2	2	—	2	—	◎

多くの項目でしっかりと目標を達成することができました。  
一方で、「廃棄物排出量の削減」と「総排水量の削減」については、残念ながら目標に届きませんでした。  
これらの課題については、現場での運用状況や取り組み方法を見直しながら、改善に向けて取り組んでいきます。



※二酸化炭素排出量の計算で使用した排出係数（2023年度調整後排出係数）：関西電力 0.419kg-CO2/kWh  
※原単位は処理1tあたりの単位である。  
※化学物質は使用していない。



# 環境経営計画

環境経営計画に基づいた取り組みを着実に推進中です！  
次年度（2025年度）の計画も策定済みで、引き続き計画に沿って環境経営活動を展開していきます。  
なお、各項目とSDGsとの関連性については、次ページでご紹介します！



目標			活動項目		スケジュール
二酸化炭素排出量の削減	1	電力使用量の削減	1	各設備の定期的な点検、メンテナンス及び清掃を行い最適な稼働状況を保つ	通年
			2	設備稼働不必要時の稼働停止の声掛け	通年
			3	未使用エリアの消灯・空調オフの呼びかけ	通年
	2	ガソリン・軽油使用量の削減	1	社用車でのタイヤの空気圧を定期的に点検し、燃費向上・エコドライブの推進	通年
			2	重機エアクリーナーをこまめに清掃、急加減速不要な空ぶかしを抑制し燃費向上に努める	通年
			3	アイドリングストップの継続推進	通年
	3	LPG使用量の削減	1	退社時にガスの元栓チェックを行う	通年
			2	夏季の給湯器の使用禁止	5月～9月
			3	給湯器温度の上限値を設定	通年
4	廃棄物排出量削減		1	ペーパーレスに努める(データ保存可能なものはデータによる保管、管理)	通年
			2	分別ルールの再周知とステッカー貼付の徹底	通年
5	DXの推進		1	クラウドによるデータの一元管理	通年
			2	ラインworksによる情報共有、管理	通年
6	水使用量の削減		1	不必要な水道の元栓を閉める	通年
			2	水道使用箇所に表示し、洗車時やその他使用の際の節水の呼びかけ、意識の徹底をする	通年
7	SDGsの普及啓発		1	持続可能な社会の実現に向け、SDGsの普及啓発や社内教育を行う	半年毎
			2	コンタクトレンズ空ケースを回収しリサイクルに出すことで二酸化炭素排出量の削減に努める	通年
8	5S推進・安全訓練実施		1	会社周辺、場内外及び紙倉庫内の清掃、整理整頓	通年
			2	安全訓練の実施（避難・消火・応急処置）	通年
9	働き方の取り組み		1	女性、高齢者、障害、ジェンダー平等、外国人など人権尊重及びハラスメント行為の防止に取り組む	通年
			2	全ての従業員にスキルアップ、労働安全衛生に関する教育を実施する	通年
			3	フレックスタイム制度の活用と柔軟な働き方の実現	適宜
			4	36協定で締結した限度時間を厳守、フレックス活用、適切な労働時間の管理、有給取得などの促進	通年



# エコアクション21とSDGsのクロスマップ

エコアクション21で実践している様々な環境経営の取り組みは、SDGs（持続可能な開発目標）の達成にも深く貢献しています。  
クロスマップでは、私たちの活動がどのSDGs目標とリンクしているのかを一覧表で整理。見える化することで、日々の行動の価値と広がりを見え、次の一歩につなげていきます。

	1 貧困をなくそう	2 気候をゼロに	3 すべての人に健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等を實現しよう	6 安全な水とトイレを世界中に	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	8 働きがいも経済成長も	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	10 人や国の不平等をなくそう	11 住み続けられるまちづくりを	12 つくる責任つかう責任	13 気候変動に具体的な対策を	14 海の豊かさを守ろう	15 陸の豊かさも守ろう	16 平和と公正をすべての人に	17 パートナリシップで目標を達成しよう
CO2排出量の削減							●				●	●	●				
廃棄物排出量の削減											●	●		●			
水使用量の削減						●											
DXの推進				●				●	●								
SDGsの普及啓発			●	●				●									
5S推進・安全訓練実施											●		●				●
働き方の取り組み			●	●	●			●	●	●							

私たちがエコアクション21の活動を通じて取り組んでいる省エネルギー、廃棄物削減、働き方改革などの施策は、SDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けた具体的なアクションと位置づけることができます。

たとえば、電力や燃料の使用量削減は「エネルギーをみんなにそしてクリーンに（目標7）」「気候変動に具体的な対策を（目標13）」に、分別・リサイクルの推進は「つくる責任つかう責任（目標12）」に該当します。

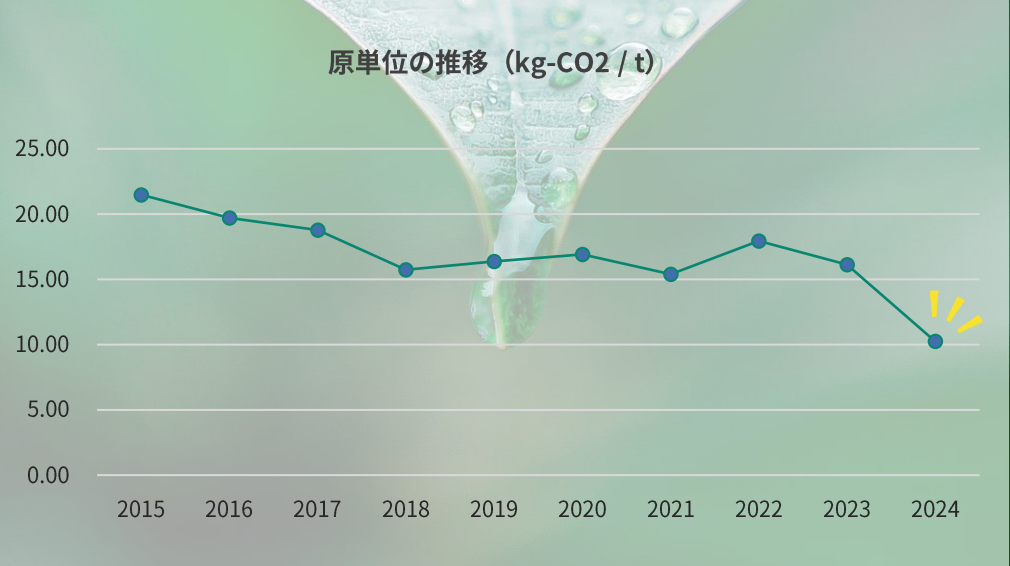
また、多様性を尊重した働き方や人材育成、安全衛生への配慮は、「働きがいも経済成長も（目標8）」や「ジェンダー平等（目標5）」など、社会面の目標にも深く関係しています。



# 二酸化炭素排出量の削減

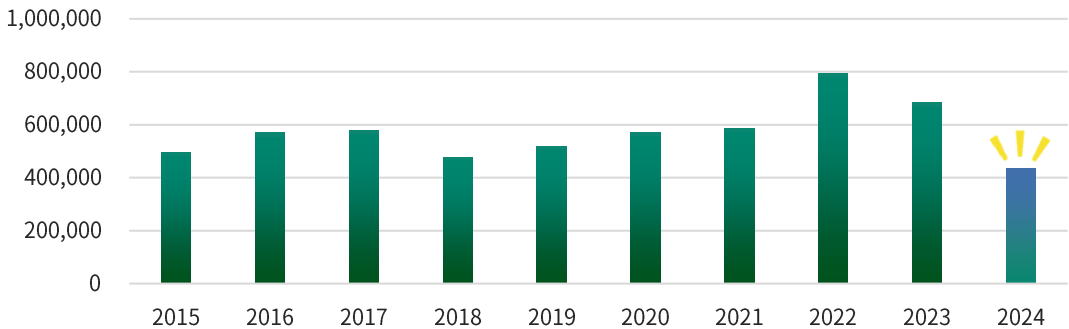
当社は、CO<sub>2</sub>排出量の削減目標を処理量あたりの原単位（CO<sub>2</sub>排出量 ÷ 処理量）で設定しています。2023年度の実績を基準とし、2024年度は原単位で0.5%の削減を目標に掲げました。その結果、2024年度は目標を大きく上回る削減を達成しました。特に、当社のCO<sub>2</sub>排出量の約8割を占める電力使用に対しては、非化石証書の購入により、排出量を大幅に削減しています。

実績値	評価	達成率
10.23 kg-CO2 / t	◎	157%

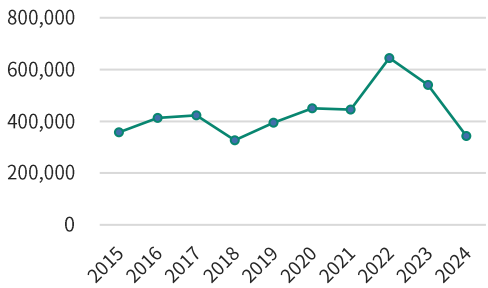


※2024年度二酸化炭素排出量の計算に用いた電力排出係数：関西電力2023年度調整後排出係数0.419kg-CO2

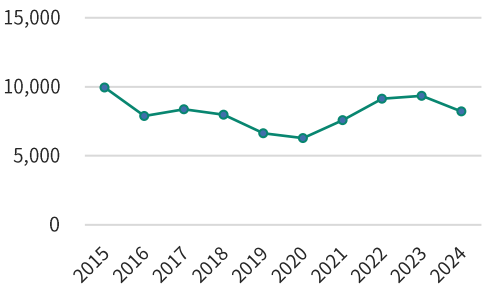
全体CO2排出量の推移 (kg-CO2)



電力CO2排出量の推移 (kg-CO2)

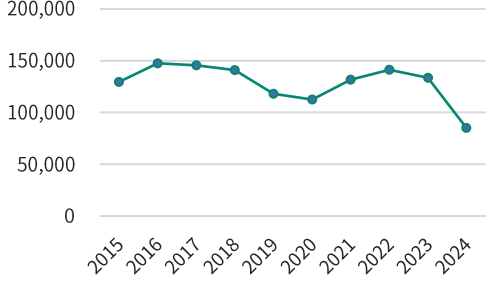


ガソリンCO2排出量の推移 (kg-CO2)

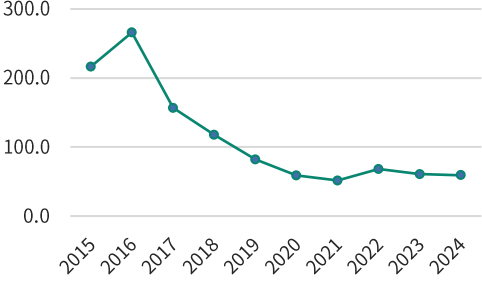


全ての項目において  
前年度より  
低い水準となりました。

軽油CO2排出量の推移 (kg-CO2)



LPガスCO2排出量の推移 (kg-CO2)

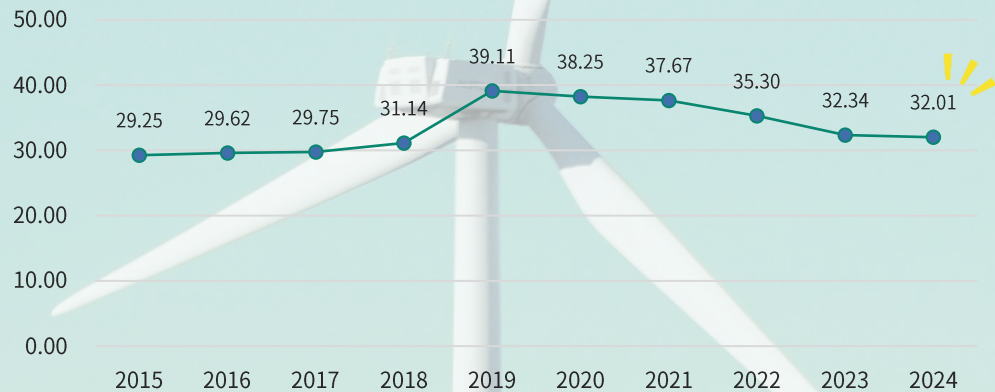


# 電力使用量の削減

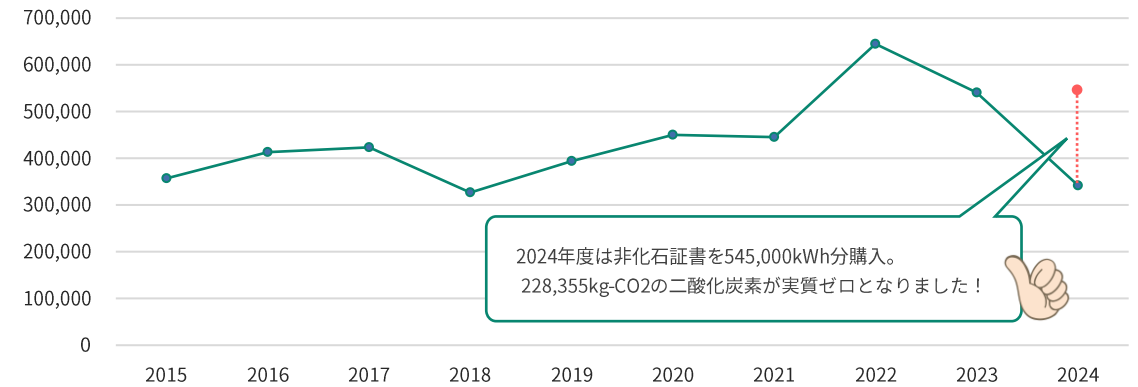
電力使用量削減の目標は、処理量あたりの原単位で設定しています。2024年度は、原単位での電力使用量が目標値に対して101%を達成し、引き続き高い水準での改善成果を記録しました。また、トラッキング付きFIT非化石証書の購入も継続して行い、環境価値の高いクリーンエネルギーを使用電力に割り当てています。当社のCO2排出量の約8割は電力使用に起因していることから、非化石電源の積極的活用を通じて、環境負荷の低減を着実に推進しています。

実績値	評価	達成率
32.01 kWh / t	○	101%

原単位の推移 (kWh / t)



電力CO2排出量の推移 (kg-CO2)



2024年度は、主要設備の一つである分級設備の改善工事を実施しました。この改善により、処理工程全体の効率が向上し、稼働時間の短縮に貢献しています。また、構造の見直しによりメンテナンスが容易になり、これまでトラブル対応に要していた時間や労力を削減。突発的な停止や処理効率の低下を防ぐ安定稼働が可能となりました。単なる省エネ対策にとどまらず、業務の安定性と生産性向上の両立を図る改修となっており、今後もこうした設備改善を通じて、電力使用の最適化を追求していきます。





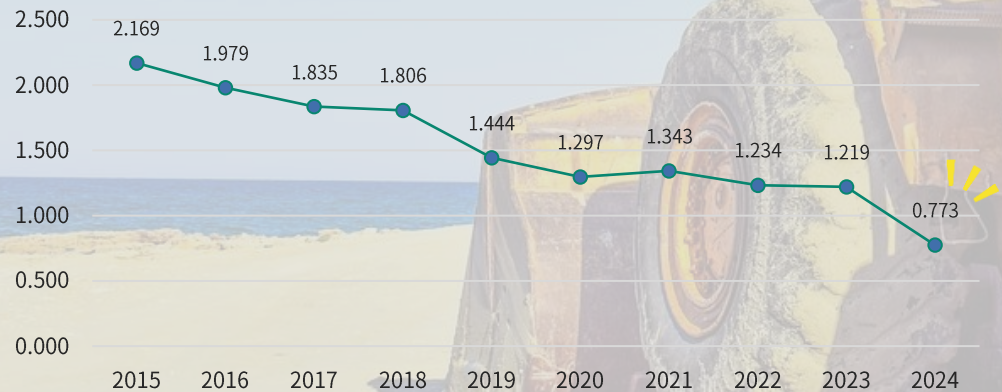
# 軽油使用量の削減

2024年度の軽油使用量（原単位）は、過去最も低い数値を記録し、目標値に対して157%という高い達成率となりました。

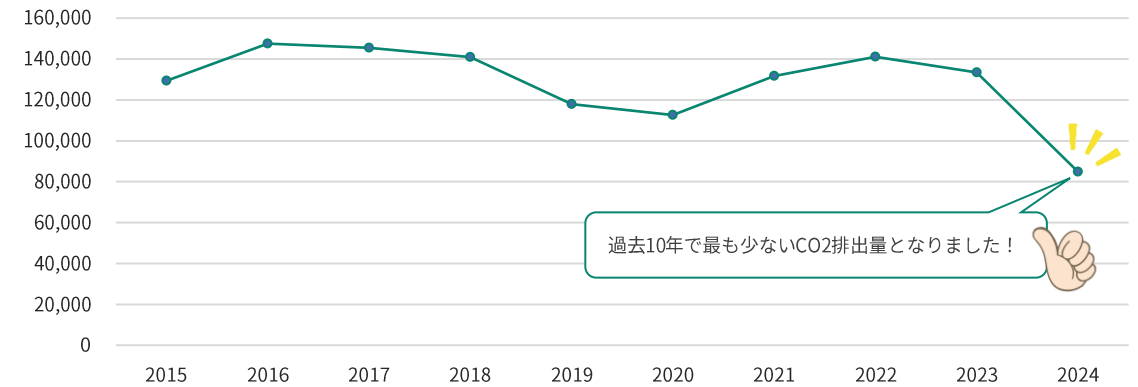
CO2排出量も同様に大きく削減でき、環境負荷の低減において着実な成果を挙げています。前年度は電気式コンプレッサーの故障により、一時的に燃料式コンプレッサーを使用していた影響で軽油使用量が増加しましたが、今年度は通常の運用に戻り、使用量も安定しています。

実績値	評価	達成率
0.773 L / t	◎	157%

原単位の推移（L / t）



軽油CO2排出量の推移（kg-CO2）



軽油使用量の推移（L）



2023年度に導入した破碎機の定量供給機は、重機の動線を合理化し、現場作業の効率化に大きく寄与しました。これにより、重機の稼働頻度が減少し、軽油の使用量も大幅に削減されています。単なる設備導入にとどまらず、運用面での見直しと連携した最適化が、環境負荷の低減と業務効率の向上を両立させています。今後も、省エネルギー型設備の導入と運用改善を継続的に推進し、処理効率の合理化と環境配慮を両立する環境マネジメントを強化していきます。



# ガソリン使用量の削減

2024年度のガソリン使用量（原単位）は、目標値に対して115%の達成率となり、大きく目標を上回る結果となりました。

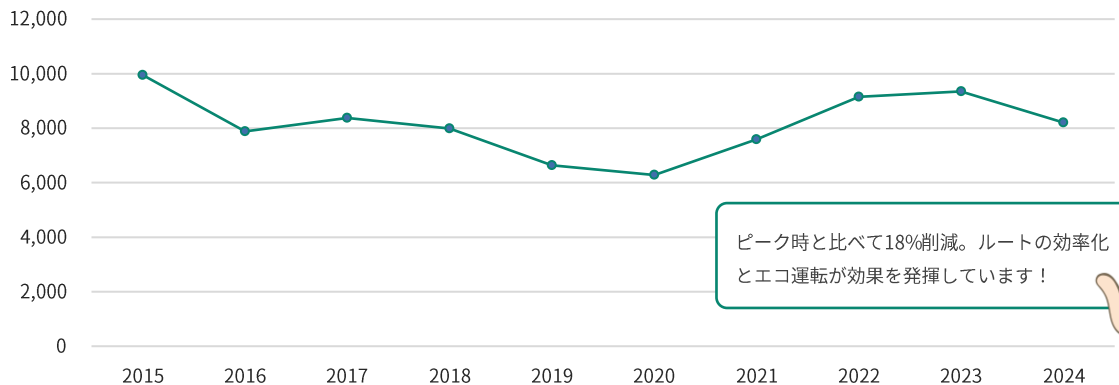
当社では、営業車両にすべてハイブリッド車を導入しており、燃費性能の高い車両による業務運用を継続しています。また、日常的なエコドライブの推進やタイヤ空気圧の定期点検、アイドリングストップの徹底など、運転習慣の改善にも継続的に取り組んでいます。

実績値	評価	達成率
0.083 L / t	◎	115%

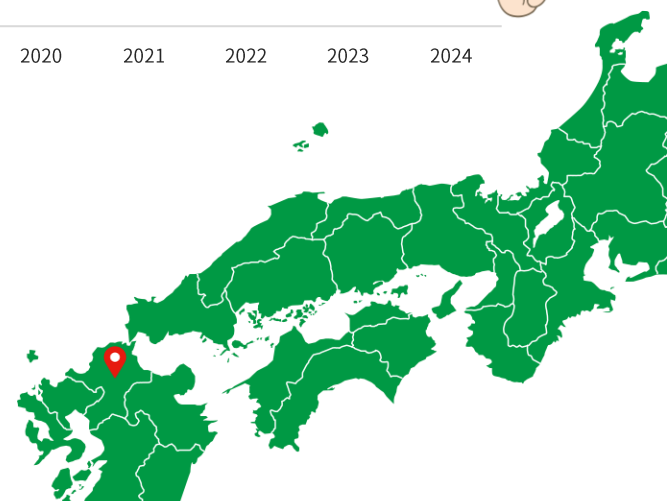
原単位の推移 (L / t)



ガソリンCO2排出量の推移 (kg-CO2)



ピーク時と比べて18%削減。ルートの効率化とエコ運転が効果を発揮しています！



営業活動が活発になればなるほど、ガソリンの使用量はどうしても増加してしまいます。だからこそ当社は、単純な使用量ではなく「原単位（処理量あたりの使用量）」で目標を設定し、効率的なエネルギー活用を意識しています。また、営業エリアは沖縄から九州全域～中四国地方までと広範囲にわたりますが、遠方への訪問時には公共交通機関を積極的に活用するなど、移動手段の選択にも環境負荷の軽減を意識した工夫を取り入れています。



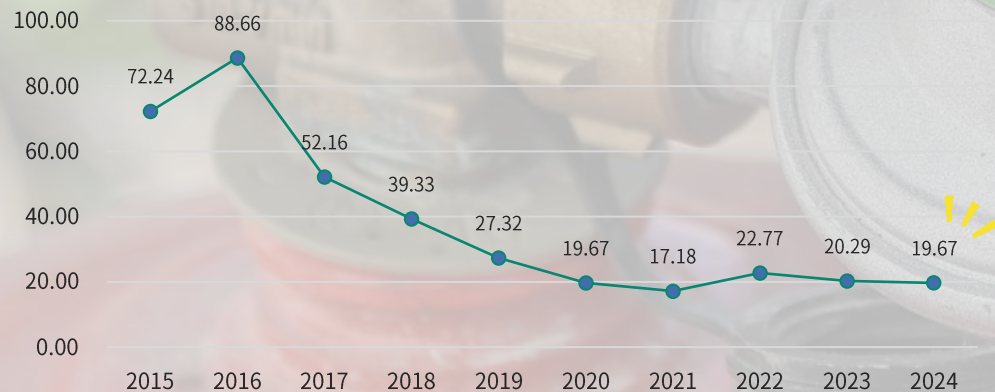


# LPG使用量の削減

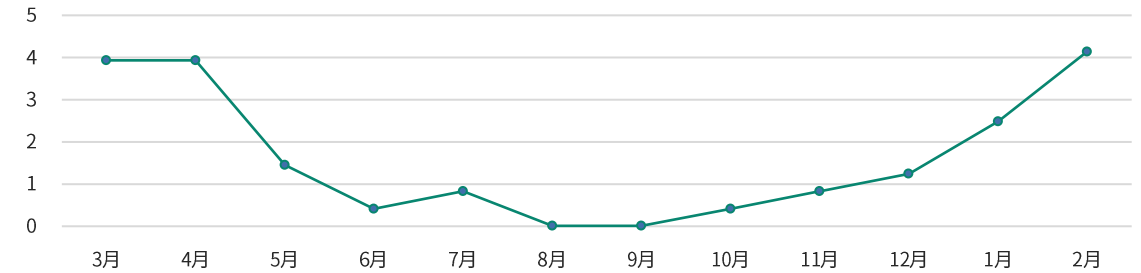
2024年度は、労働環境の向上を目的に新設されたシャワー室の本格稼働により、LPGの使用量が増加することが想定されていました。  
しかし、実際の使用量は目標比103%と、計画内に収める結果となりました。  
この背景には、主に夏季の利用が中心だったためシャワーの温度を高く設定せずに運用できたことが挙げられます。加えて、設備の効率的な管理と従業員の省エネ意識も、無理のないエネルギーコントロールに繋がりました。

実績値	評価	達成率
19.67 kg	○	103%

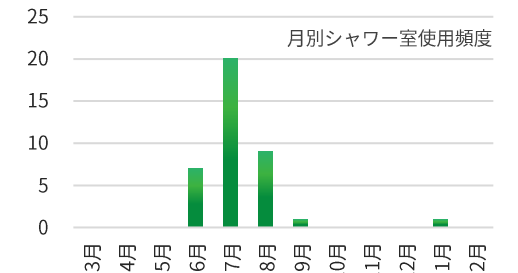
使用量の推移 (kg)



月別LPG使用量の推移 (kg)



シャワー室の使用状況を把握するために、使用のたびに専用のQRコードにアクセスし、利用状況を記録する運用を行いました。



2024年度は新たにシャワー室を設置したことによりLPGの使用量の増加が見込まれましたが、夏季中心の利用により湯温を抑えた運用や、事務所給湯器の夏季使用制限といった工夫により、実際の使用量は抑えられました。  
設備の増加があっても、運用方法の見直しや制御を通じてエネルギー消費の最適化を図ることが可能です。今後もこうした地道な改善を積み重ね、省エネルギーと環境負荷低減の両立を目指していきます。

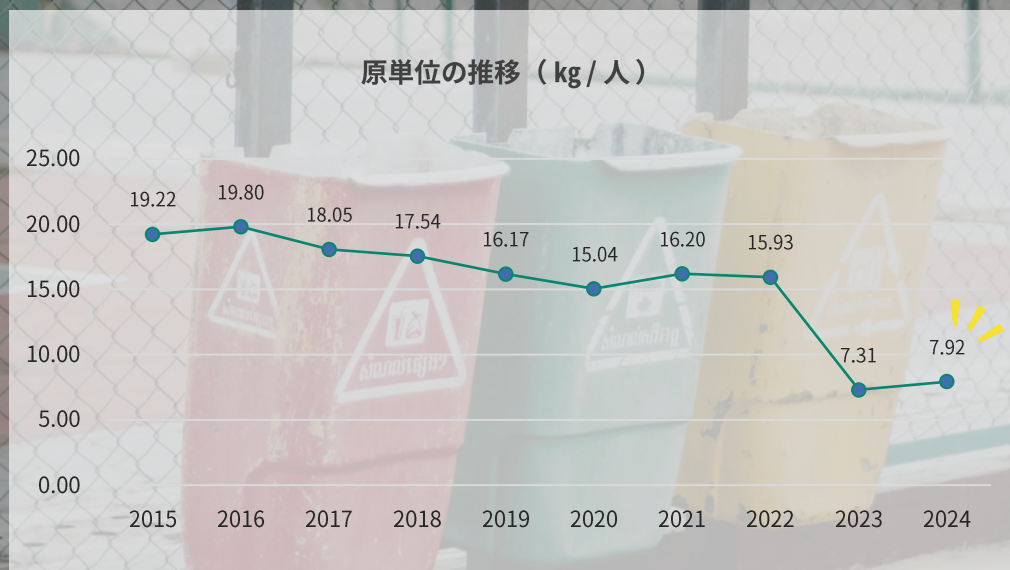




# 可燃ごみ排出量の削減

可燃ごみの排出削減については、原単位（kg／人）で目標を設定し、目標達成率92%となりました。目標値に対しては未達でしたが、実際の排出量は前年の205kgから198kgへと削減しています。原単位の算出には期初の人数（25人）を用いているため、前年と同じ人数（28人）で換算すれば目標達成に届いていた計算です。2023年度から分別の徹底に取り組んだことで、それまでの平均排出量（338kg）から見ても39%の削減と、大きな改善が見られました。

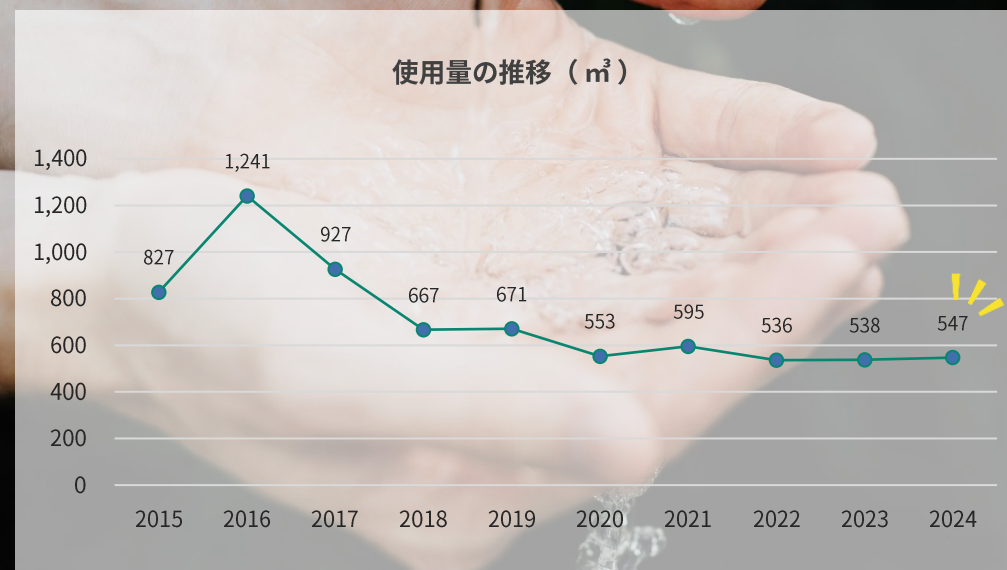
実績値	評価	達成率
7.92 kg / 人	×	92%



# 総排水量の削減

総排水量の削減については、実使用量（m<sup>3</sup>）ベースで削減目標を設定しています。2024年度は達成率98%と、目標にわずかに届かなかったものの、全体としては良好な水準を維持しています。直近3年間にわたり総排水量はほぼ横ばいの状態を保っていますが、わずかに増加傾向が見られるため、今後も注意が必要です。当社では日常の業務において、節水意識の向上や設備利用時の注意喚起を継続しておこない、水資源の有効活用と持続可能な環境づくりを進めてまいります。

実績値	評価	達成率
547 m <sup>3</sup>	×	98%





# INTERVIEW

エコアクション21の取り組みは、特別なことなく、  
毎日の仕事のなかに自然と溶け込んでいます。  
それぞれの持ち場から生まれた、小さな“アクション”を集めました。

気づきから、行動へ。

行動から、変化へ。

製造部（入社7年）

設備の見直しやメンテナンスの徹底など、製造現場でも“省エネの視点”が浸透してきたと思います。今年は分級設備の改造があって稼働効率が上がった分、エネルギー使用量も抑えられたのが実感できました。こういう改善が、現場のやりがいやモチベーションにもつながっています。

管理部（入社半年）

まだまだ勉強中の身ですが、経理として数字を扱うなかで、エネルギー使用量や廃棄物の削減目標が“数値目標”として明確になっていることに驚きました。月次の確認作業では、社内の努力が目に見える形でわかるので、自分もその一部なんだという意識が強くなりました。

製造部（入社3年）

エコアクション21の取り組みも、自分の作業だけでなく“全体としてどうムダを減らせるか”を考える意識に変わってきたと思います。定量供給機の導入で動線が整理されてからは、自分たちの動きもより効率的に。今後も、より良い現場づくりに貢献していきたいです。

営業部（入社4年）

営業活動では移動が多く、ガソリン使用量が環境負荷につながっていることを強く意識しています。遠方出張時には公共交通を活用するなど、自分たちでできる工夫を継続しています。“数字で見える”からこそ、行動が変わるという実感があります。

# SAFETY & HEALTH

声をかけ合い、  
気づきを共有し、  
事故ゼロへ。

「安全最優先」の意識が、エコアクションにもつながっている。  
現場での安全への取り組みは、効率や環境にもつながる。持続可能な職場づくりの第一歩です。

## カメラの設置による安全管理の強化



車両の進入ルートや待機エリアでの不安全行動を即座に確認できるよう、工場各所に監視カメラを設置。受付モニターによりリアルタイムで状況を把握し、迅速な対応が可能になりました。また、スマートフォンやPCからの遠隔確認も可能なため、事務所からでも工場内の様子を随時チェックできます。未然にリスクを防ぐ取り組みを日常化しています。

## 各回転体への安全対策を徹底



工場内の全回転体を対象に一斉点検を実施し、巻き込まれによる重大事故のリスクを排除。リスクの高い箇所には安全柵やインターロック装置を設置し、誤作動や接触を防ぐ物理的対策を講じました。今後も稼働設備に対する継続的なリスクアセスメントを通じて、より安全な作業環境の実現を目指します。

## 毎月の安全衛生部会の開催



毎月開催している安全衛生部会では、現場からのヒヤリハット事例や安全トピックの共有、改善案の検討を行っています。部会後には部門横断で工場パトロールを実施し、異なる視点で潜在的なリスクを洗い出します。また、部会内ではエコアクション21の取り組み共有やSDGsに関する学習もあわせて実施しており、安全と環境の両面から意識の底上げを図っています。



# HIGHLIGHTS

私たちが実際に行った「Eco Action」をピックアップしてご紹介。  
目標達成に向けたひとつひとつの「やってみた」が、確かな成果に繋がっています。

小さな工夫、  
大きなインパクト。

## 水循環ポンプの導入



剥離紙を圧縮梱包する工程で水を加える事があります。  
しかし、圧縮時にはその水が設備の隙間から染み出し、処理後に水たまりが発生するという課題がありました。

この課題を解決するため、水循環ポンプを導入。  
染み出した水を一カ所に集め、再び圧縮機に戻す仕組みにより、水の使用量削減と清掃回数の低減という二重の効果を実現しました。

現場の「ちょっと不便」を見逃さず、仕組みを変えることで環境にも作業効率にもプラスの結果を生んでいます。

## 磁選機ドラムの改善



紙部のドラム磁選機では、金属回収時に磁力が強すぎて紙まで一緒に吸着してしまい、作業者が手作業で分別する手間が発生していました。また、紙の混入によって金属の処理費用も増加するという課題がありました。

そこで今回、磁選機本体とシェルの間に1cmの隙間を設けるというシンプルながら効果的な改良を実施。その結果、磁力が適度に弱まり、紙の巻き込みが大幅に減少。選別作業の工数を削減できたほか、金属の純度向上により処理費の抑制にもつながりました。

現場の気づきをもとにした小さな改善が、大きな効率化とコストダウンへと結実した事例です。

# FOCUS

当社では、災害時に発生した廃棄物の受け入れ対応も、地域インフラを担う企業としての重要な責務と考えています。

限られた時間・体制の中でも、安全・確実な処理を通じて、被災地域の早期復旧に貢献します。

## 非常時こそ、 支える力に。

熊本地震（熊本県）



受入時期：2018年2月  
受入実績：33.9t

西日本豪雨（愛媛県）



受入時期：2019年 - 2020年  
受入実績：77.03t

久留米豪雨（福岡県）



受入時期：2024年3月  
受入実績：10.63t

### 災害廃棄物の受入

災害によって発生する廃棄物は「一般廃棄物」に分類されるため、許可を持たない事業者では受入・処理ができません。

当社は、一般廃棄物処理施設の設置許可を有しており、災害時にも迅速かつ確実に対応できる体制を整えています。

2024年3月には、久留米市を襲った豪雨災害に伴い、合計10.63トンの災害廃棄物を受け入れ、適正に処理しました。

これに加え、過去にも2018年の熊本地震（熊本県）や2019年の西日本豪雨（愛媛県）において、石膏ボードの災害廃棄物を受け入れた実績があります。

このような対応は、平時からの処理技術と体制に加え、「もしも」の時に地域を支える社会的責任を果たす取り組みの一環です。

今後も私たちは、通常のリサイクル業務に加え、非常時においても求められる存在であり続けられるよう努めてまいります。



環境関連法規等の遵守状況及び評価結果

当社が遵守しなければならない、主な環境関連法規等は次の通りです。

○廃棄物処理法、○大気汚染防止法、○騒音規制法、○振動規制法、○フロン排出抑制法、○消防法

2025年3月18日に、順法性評価した結果、違反はありませんでした。

関係当局より違反等の指摘事項及び訴訟は、過去3年間ありませんでした。

産業関連					
法律名称	適用の施設、設備、装置	適用の法規	適用の状況、順守状況	評価項目	評価
環境関係法規等	有害物の取扱い等	・有害物の取扱い、貯蔵等に関する法令 ・廃棄物の取扱いに関する法令	・有害物の取扱い、貯蔵等に関する法令 ・廃棄物の取扱いに関する法令	・有害物の取扱い、貯蔵等に関する法令 ・廃棄物の取扱いに関する法令	2025/3/18
	騒音の取扱い等	・騒音の取扱いに関する法令	・騒音の取扱いに関する法令	・騒音の取扱いに関する法令	2025/3/18
	振動の取扱い等	・振動の取扱いに関する法令	・振動の取扱いに関する法令	・振動の取扱いに関する法令	2025/3/18
	大気汚染の取扱い等	・大気汚染の取扱いに関する法令	・大気汚染の取扱いに関する法令	・大気汚染の取扱いに関する法令	2025/3/18
	水質汚染の取扱い等	・水質汚染の取扱いに関する法令	・水質汚染の取扱いに関する法令	・水質汚染の取扱いに関する法令	2025/3/18
環境関係法規等	環境関係法規等	・環境関係法規等に関する法令	・環境関係法規等に関する法令	・環境関係法規等に関する法令	2025/3/18
	環境関係法規等	・環境関係法規等に関する法令	・環境関係法規等に関する法令	・環境関係法規等に関する法令	2025/3/18
環境関係法規等	環境関係法規等	・環境関係法規等に関する法令	・環境関係法規等に関する法令	・環境関係法規等に関する法令	2025/3/18
	環境関係法規等	・環境関係法規等に関する法令	・環境関係法規等に関する法令	・環境関係法規等に関する法令	2025/3/18
環境関係法規等	環境関係法規等	・環境関係法規等に関する法令	・環境関係法規等に関する法令	・環境関係法規等に関する法令	2025/3/18
	環境関係法規等	・環境関係法規等に関する法令	・環境関係法規等に関する法令	・環境関係法規等に関する法令	2025/3/18

定期的に一覧表でチェックし、  
確実な法令順守を図っています。

次年度の環境経営目標・環境経営計画

環境目標			単位	2023年度(基準年度)	2025年度目標
1	二酸化炭素排出量の削減		kg-CO <sub>2</sub>	683,221	—
			kg-CO <sub>2</sub> / t	16.12	15.96 (1%減)
	1-1	電力使用量の削減	kWh / t	32.34	32.02 (1%減)
	1-2	軽油使用量の削減	L / t	1.219	1.207 (1%減)
	1-3	ガソリン使用量の削減	L / t	0.095	0.094 (1%減)
	1-4	LPG使用量の削減	kg	20.29	20.09 (1%減)
2	廃棄物排出量の削減		kg / 人	7.3	7.23 (1%減)
3	総排水量の削減		m <sup>3</sup>	538	533 (1%減)
4	5S活動の推進		実施回数	2回 / 年	2回 / 年
5	予算の達成		参考資料：組織目的・目標設定シート		

次年度の環境経営目標および計画について

当社では、環境負荷のさらなる低減を目指し、2023年度実績を基準とした各項目での1%削減を次年度の環境経営目標として設定いたしました。これは数値上は小さな割合に見えるものの、すでに一定の削減を達成してきた現状において、継続的な改善の姿勢を示す意味でも重要な一歩であると認識しています。

なお、環境経営計画に関しては本年度からの大きな改定は行っておりません。過去の取り組みを通じて蓄積された改善策と運用体制を基盤とし、引き続き、全社を挙げて既存計画の実行と運用強化に注力してまいります。

特に、日常業務の中での地道な工夫や、従業員一人ひとりの意識改革が、目標達成に不可欠です。今後も定期的なモニタリングと効果検証を行いながら、持続可能な環境経営の実現に向けて着実に取り組んでまいります。

# 課題とチャンス

## 事業者の内部に起因するもの

## 事業者の外部に起因するもの

経営における課題 (事業上の弱み、問題点等)	<ul style="list-style-type: none"><li>製造現場作業の人員確保・定着に苦戦しており、持続可能な経営・成長に、懸念。</li><li>製造現場の作業環境は改善傾向にあるが更なる取り組みが必要。</li><li>設備の老朽化が進んできており適切な設備投資が必要。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>建設資材高騰、人材不足による開発（解体）計画の延期・中止等による廃石膏ボード排出量の低下懸念とそれに伴う競争激化。</li><li>2024年問題に起因する運搬車両不足と単価の高騰により遠方顧客からの受入れ減少懸念。</li></ul>
経営におけるチャンス (事業上の強み、有利な点等)	<ul style="list-style-type: none"><li>スピード感のある対応と安全・コンプラの遵守により顧客からの信頼が厚くリピーターが多い。</li><li>少数組織の中で、個人の多能工化を含めスキルが高く生産性が高い。</li><li>排出先、受入先との業務資本提携により安定したリサイクルフローの構築がなされている。</li><li>九州中国地方でも最大規模の石膏ボード特化処理プラントを保有、品質管理も徹底しコンプラ厳守の適正処理を推進。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>SDGsの認知が進み各企業の廃石膏ボードリサイクル意識が向上。</li><li>グループの強みも活かし廃棄物全般の相談にも対応が出来ることにより、新規顧客の獲得、既存顧客の深耕開拓、情報収集による新しい取組みの検討が可能。</li></ul>

# 代表者による全体評価と見直し結果

当社の環境経営システムは、「廃石膏ボードのリサイクル事業を通して持続可能な社会の実現に貢献する」という共通意識のもと、環境・衛生・安全に関する組織目標を明確に掲げ、着実な実践を重ねることで、すべての目標において達成という成果を収めています。これにより、環境経営システムは有効に機能していると評価できます。

環境への取り組みにおいては、各項目に対する具体的な目標達成計画を立案し、全従業員が一体となって取り組みを推進。進捗状況は月次の安全部会や部門ミーティング等で共有され、必要に応じて計画の見直し・改善が実施されるなど、PDCAサイクルに基づいた適切な運用がなされています。

環境方針については、本業と明確にベクトルが一致しており、SDGsの理念とも整合性が取れているため、現時点では変更の必要はありません。また、環境目標および活動計画についても、組織の目的と整合を図りながら、達成に向けた改善施策や合理化の取り組みが推進されており、引き続き現計画を基に取り組みを進めてまいります。なお、環境活動の実施体制についても適切に機能しており、現行体制のもとで引き続き運営していく方針です。





## 株式会社グリーンアローズ九州

対象期間：2024年3月～2025年2月

発行日：2025年5月14日